

# ひろがり

No18

左：春の母校写真

撮影（在仙同窓会 羽生会長）

発行日：2019. 7. 23

発行者：佐高在仙同窓会広報誌委員会

## 「令和新たな同窓の絆づくりを」 佐沼高校在仙同窓会会長 羽生 正弘



盛夏の候、会員皆様  
にはご健勝にお過ごし  
のことと存じます。ま  
た平素から同窓会活動

にご支援を賜っており御礼を申し上げます。

さて、本年は我国歴史上転換点となる  
「令和」と年号が変わりました。「平成」は  
平和の達成をと願った年号とのことですが、  
東日本大震災に見舞われました。経済は  
失われた二十年と言われながらも、まず

まずの経過をたどり令和新時代に突入し  
たように思います。令和は経験したこと  
ない幾多の難題が待ち構えているようで  
すが、明るい、幸せを感じ取れる時代にな  
って欲しいものです。歴史の区切りの今日、改  
めて母校を振り返ると、明治三十五年宮  
城県で六番目の旧制中学として誕生し、  
本年百十七年目を迎えました。

在仙同窓会は昭和五十九年八月「校訓  
と民主主義の原理に基づき友愛と団結を  
持つて親交を深めよう」との崇高な理念の  
もと、発足し今日に至っております。

近年は多くの会員皆様のご参加の他、  
総会を担当する還暦になった期別幹事の  
活躍と共に、「県警プラタナス会」「七十七

銀行佐高会」など強力な職域同窓会の皆  
様に本同窓会を支えて頂いております。ま  
た機関誌「ひろがり」も一部の同窓生企業

のご芳志によるところが大であります。会  
員皆様の年会費の中から母校のクラブ活  
動助成金として、毎年十万円を寄贈して  
おりますことも、在仙同窓会の特長であり  
ます。デジタル社会の到来、コミュニケーション

もSNSでと変わっていますが、総会に足  
を運んでいただき、皆さんの元気に触れ、  
お互いまた頑張ろうと研鑽しあう同窓会  
活動は郷里を共にし、同窓であることの特  
権でもあります。

令和新時代さらなる同窓の絆を深める  
ため、若手同窓生の職域、部活の後輩、友  
人知人にもお声掛け頂き、熱い同窓会活  
動となるよう一層のご支援をお願い申し  
上げる次第です。結びに会員皆様の益々の  
ご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

## 「令和元年を新たなスタートに」

佐沼高校校長 茂木 好光



在仙同窓会の皆様には、日頃より本校の教  
育活動に様々な形でご  
支援を賜り、厚く御礼

申し上げます。

本校は、令和元年の今年で創立百十七年

目を迎えました。少子化の影響で、在籍数  
は全日制六百五十九名、定時制三十六名  
で定員割れに至っておりますが、校是「文  
武両道」を胸に日々の学校生活に自分自  
身の志を達成すべく真摯に取り組んでいま  
す。

進学では三月の卒業生は東北大学を含む  
国公立四十七名、私立四年大学二百五十  
三名、短大十六名、看護医療系専門学校  
等四十七名、公務員十八名、民間六名の  
合格の実績を残しました。部活動では、陸  
上競技部が棒高跳で沖縄インターハイ、美  
術部が全国総文祭佐賀大会に出場しま  
す。

定時制では、ETA（事業主と教師の会）  
が昨年創立五十周年を迎えました。在学  
中にアルバイトをして「働きながら学ぶ生  
徒」の支援を、地域の皆様方と連携し今後  
も推進して行きます。

昭和四十五年に建てられた体育館も老  
朽化が進み、新体育館の建設計画が二年  
後の完成を目標に現在進行中です。あわ  
せて新校舎の建設計画も関係機関と連携  
し、伝統ある佐沼高校の象徴としての学び  
舎が実現するよう取り組んでいきます。

令和元年を新たなスタートとして、様々  
な活動を通して教職員一丸となって取り  
組んで参りますので、今後ともご支援ご協  
力を賜りますようお願い申し上げます。



# 本部同窓会会長挨拶

佐沼高等学校同窓会会長(高二十回生)

氏名 良典



より、活発な在仙同窓会活動に心から御礼申し上げます。

先日、母校にお邪魔した際、校長先生から今の校舎が古くなり、建て替えの時期にきている、という話を聞きました。普段しつかり清掃が行き届いており、気がつかなかったのですが、筑後、五十年以上経っているとのことでした。先ずはじめに、体育館を建設して、今の二年生が卒業式で使えるよう、間に合わせたいとのことでした。

我々学校生活はほぼ木造校舎で、目に浮かぶのは木造校舎のことばかりです。大半の同窓生は、今の校舎の学校生活だったでしょう。体育館の完成後は徐々に校舎の方にもとりかかっていく計画の様です。旧校舎はもちろん、いずれ、現校舎も、写真でしか見られなくな

ることはたいへん残念ですが、少子化による統合で、校名、校歌すら別になる学校のことを思うと、まだ幸せなのかもしれません。

さて、昨年九月、第一回佐沼高校同窓会懇親ゴルフコンペ(杜の都G・C)を開催しました。天候にも恵まれ、約百名の参加があり、二十代から八十代まで各年代老若男女、たいへん楽しいひと時を過ごしました。在仙同窓会ゴルフコンペをベースにしたこともあり、幅広く参集いただきました。この開催は、佐高同窓会の認知に、佐高同窓生の絆に大いに繋がったことと思っています。

結びに、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## 母・校・通・信

「平成最後の佐高 令和最初の佐高」

佐沼高校同窓会事務局

(高三十回生)片平 保裕

在仙佐高会の皆様には日頃より母校に温かいご声援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、開校百十七年目、西暦二〇一九年度がスタートして三ヶ月目を迎えました。四月は、「平成最後の入学式」、

### ラグビー部

県総体 第三位

### 野球部

東部地区大会 第一位

### 美術部

八谷彩華(三年)

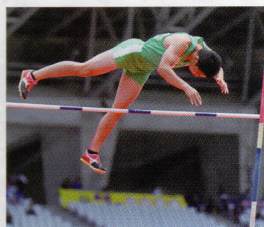
宮城県高校美術展 優秀賞

作品名『imaginary』

(全国高等学校総合文化祭出品決定)

小林宗士君

(棒高跳び)



野球部(東部地区大会第1位)



ポート部集合



『imaginary』八谷彩華さん



## 各界で活躍する在仙同窓生

### 剣道最高段位八段に合格

宮城県警 名生伊智郎さん（高四十回生）



全日本剣道連盟の最高段位八段に合格するのは、難関中の難関とも言われています。二〇一八年十一月（東京・日本武道館）の昇段審査で、

名生伊智郎さんは、合格率0.7%という狭き門を見事突破して快挙を成し遂げました。昨年は一一四人が挑み、合格は八人のみ。現役では県内四人目、そして県内では七年振りの合格、宮城県警では四十年振りの合格という栄誉を手にしましたのです。

昇段審査は二分間の立会を二度行い、正しい剣道を実践しているかを審査されます。座右の銘「自強（じきよう・自ら勉めて励むこと）」と染めた手ぬぐいを締めて臨んだ審査会は、『心・技・体が完璧に調和したのかな』と名生さんは謙虚に振り返ります。

名生さんは、小学生の頃は迫ラグビースクールで体幹を鍛え、走ることが大好きなわんぱく少年だったと言います。

高校時代に剣道で本格的に頭角を現し、秋の新人戦では、決勝で小牛田農林の選手に敗れたものの、翌年の総体ではそのライバルに雪辱し個人戦で優勝、インターハイへと駒を進めました。

次の目標を尋ねると、最高段位八段の選抜大会に出場することと答えていただきました。これからの本当の修行と一層気を引き締めて、稽古に励み精進していくのだ、という強い覚悟を感じました。夏場には、母校佐沼高校に行き後輩を指導します。剣道とは、相手を打ちたいという「対立」ではじまり、相手と心のかけひきをする「対話」をして、「融和」する醍醐味があると説きます。打ってまだまだという「反省」、打たれて「感謝」。単なる競技としての剣道ではなく精神的なものが重要だとも静かに語ります。四歳年下の夫人、由紀恵さんは、同じ職場で共に剣道をしています。家ではカミさんに負けずと笑う名生さん。今年一月十二日（土）、登米市迫町ホテルグランヴィアにおいて佐沼高校剣道部OB会主催の「剣道八段御昇段記念祝賀会」が開催されました。登米市剣道連盟からも多くの参加があり、名生さんの昇段を共に祝う盛大な会となりました。



平成31年1月12日の祝賀会

### 高洋先生の十三回忌に因み

#### 「花園会」開催

早坂（福田）充（高十八回生）

去る、三月九日・十日の春を先取りしたような温暖な天候の下、佐沼高の「親父」である、故高橋洋一郎先生の十三回忌の墓参を兼ねた「花園会」を、佐沼の地で初めて開催しました。

「親父」は、佐沼高運動部の祖と云われる名監督です。県総体陸上競技団体四連覇その後ラグビー部に移り、聖地、大阪花園ラグビー場の全国大会に四度も連れていってくれた知将です。

現在「花園会」は昭和三十八年、三十九年、四十一年、四十四年正月の全国大会に出場したメンバーを主体に構成されています。

元々この会は、昭和四十一年の全国大会に出場した際、佐沼高校の『女子マネージャー』は当時としては珍しく、全国のテレビや新聞等のマスコミに紹介されました。その後、昭和五十三年に「あの人はいま」という仙台放送の番組に再び出演した、佐々木（茂木）みつ子マネージャー（十八回生）等を労う会として始まったものです。また、在校当時の合宿の食事の世話をして下さった、大畑よし子さん、山村よし子さん（十八回生）の女性陣も交え、仙台を中心に隔年の開催となりました。

後に、十五、十六、十七回生の方々と、「親父」のご子息にも参加いただき、正式に「花園会」と命名しました。そして今回からは二十一回生の方々も仲間として参加いただきました。

当日は、関西、関東からの参加者を含め二十数名が、まず、親父の墓前に焼香、そして全員による「日月冥き混濁の・・・」で始まるラグビー部歌（高橋洋一郎・作詞曲）の合唱で御供養としました。歌の最中に涙ぐむ方もおり、佐沼での開催は本当に良かったと思いました。

その後のホテル・グランヴィアでの懇親会には、高橋英勝OB会長（登米総合産業高校教頭）もお祝いに駆けつけていただきました。また参加者全員から、当時の大会や練習のエピソード、その後の五十年来し方についてのスピーチ等があり、夜遅くまで大変盛り上がりしました。

翌朝には、母校のグラウンドにラグビー部を訪ねました。練習の途中にもかかわらず、部員一同整列のうえ挨拶をしてくれました。会からは代表して菅原憲司さん（十八回生）が「全国大会を目指して頑張ってください」と激励。そして今年の「花園会」は盛会裏のうちに終了しました。



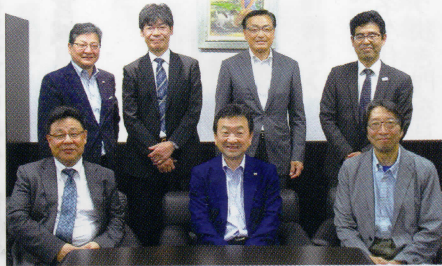
平成31年3月9日佐沼のホテルにて



5月16日、今年の総会幹事、30回生6人と事務局・岡本智悦さん（30回生）が集まり、近況報告、高校時代の思い出を語り、今年の総会への参加を呼び掛けてもらった。（敬称略）

## 集まれ 30回生！

今年の在仙同窓会総会  
9月7日（土）開催



30回生、総会で会いましょう！

自己紹介と近況報告をお願いします

（目下教）出身は中田中です。部活は

水泳部。そんなのあったの、と言われます。校内水泳大会で100メートルメドレーに、あわてて練習して、なんとか出た思いがあります。学院大に進み、サラリーマンを10年位やりまして、今の不動産会社をやっています。27、28年になります。



千葉覚さん

### （千葉覚）

出身は中田町の石森です。ラグビー部に3年間。部員が少なく、3年生の時には4人借りてきて県大会に出場しました。練習が厳しい、先輩が怖いという噂、入ってもすぐ辞めていく、つらい思い出もありました。3年生の時に青森国体に選拔され、県代表で行きました。（えーうそ、知らなかったー）壮行式もやってもらいました。現在は、天皇陛下の退位と共に、41年勤務めた「コカ・コーラボトラーズジャパン」を退職、5月1日からは、実家が農家をやっているの、昨日も一昨日も、田植えをしてきました。自宅は仙台なので、行ったり来たりです。

### （菅原正）

出身は中田町の石森です。部活は全く記憶にないです。高校を出て、国鉄に入り、小牛田駅で連結作業、その後、仙台車掌区で6年位、車掌やっています。国鉄が35万人体制、民営化になるという時期で、その頃旅行会社のブームもあり、近畿日本ツーリストに入りしました。今もそのまま近畿日本にいます。

### （及川文昭）

中田中の出身です。石越から越境しました。現在はウジエスパーの商品部の責任者をしています。高校を出ていろんな仕事をしました。24歳から12年ほどアメリカに行き、さまざまな仕事をしました。最初の仕事は寿司の板前、その縁でニューヨークに行ったのですが、すぐ辞めて、アメリカの不動産の専門学校に入り、ライセンスをとって、不動産投資と管理の仕事をやりました。そのころ、日本の企業もかなりバブリーでアメリカへの投資が激しかった時期です。その後、訳あって日本に帰って来ました。会社の氏家専務とは向こうでも知り合いで、また私の兄が会社にいたという縁で、ウジエスパーで22年ほどお世話になっています。

### （英語、大丈夫だったの！）

英語を覚えるのにパターンがあつて、「遊び」で覚えるか、すぐ学校に行くか。私は後者でした。すごくラッキーだったのは、たまたま行った学校で、すごくいい先生に巡り会いました。英語で「Fireworks」と言われ、頭の中は「？？？」。先生が「花火だよ」と日本語ペラペラ。それをきっかけにプライベートでもお付き合い、英語にも慣れていきました。意外と、今もしやべれるもんですよ。



及川文昭さん

### （高橋裕二）

登米中出身です。自然科学部地学班でしたが、帰宅部でした。現役の時も医学部を受けたのですが受からなくて、一浪して自治医大に入りました。卒業してから宮城県で9年間お礼奉公、県内の病院を転々、東北大学に行つて学位を取つて、今の医科薬科大の厚生年金病院に勤務、今は利府で開業しています。ゴルフをやっていました、上手くないので、4、5年前からランニングを始めました。

### （小野寺邦之）



小野寺邦之さん

中田中出身です。卓球部でした。現在は、県庁で、営繕課にいます。卓球での活躍は特にはないですが、県で団体ベスト8だったと思います。今はブームだけど、あの頃は全然で。今年から母校の体育館の建て替えが始まって、テニスコートのところにできあがる予定です。続いて、本校舎の方の建て替えが始まる予定です。ソフトボールの所に仮校舎作つて、どちらかというと、西側の方に全体が移るようです。県庁でも佐高会あります、えらく少なくなりました。100人位集まっていたけど、今は30人位。同期は、知事部局で5、6人位、あと教員の方、事務の方。

この前の東京マラソンと仙台ハーフにできました。仙台ハーフのタイムは1時間55分でした。（佐高で医学部は珍しいですね）僕らの時は、同級生でもう1人、先輩にも何人かいました。（昔から、ちよー真面目で、勉強できてねーの声）



女性の方が多いです。

同期との交流は

(千葉)

在仙佐高会のゴルフでは、このメンバーとはよく会いますね。終わってからは、飲んだり。

(高橋)

何年か前に、皆で会ったね。

(及川)

確か2年前に、佐沼であった本部同窓会の幹事が我々30回生で、みんな集められた。あんまり来ないのではと思っていたらすごく来て、100人位来たかな。

(目下)

同期だけで100人！ビックリした。

(事務局)

それでは、今度の仙台も、大丈夫ですね。

高校時代の思い出

(高橋)

俺たちの時、そういえば、修学旅行がなくなったよね。

(事務局)

28回生の座談会で、修学旅行で、後輩に迷惑をかけたという話がありました。

(ほぼ全員)

そうだ、そうだ！なんか、2年上の先輩たちが何かあって、学校で自粛したとか。

(目下)

俺は、受験勉強に影響するから、一高、二高が廃止したので、うちもそうするとか言われた記憶がある。(そんなばかな！)

(菅原)

自分達は十和田に行った。東北一周みたい。



菅原正さん

(目下)

2クラスごと、2泊3日、費用2万円で。2万円以内ならコースはどこでも良くて、自分達で企画して行った。

部活動の活躍は

(小野寺)

部活は、全体的にあまり強くなかったな。

(事務局・岡本)

野球はシード校になった。

春の大会4位で。夏の大会については聞かないで。ピッチヤーの小竹が活躍した。

(目下)

今年は春の大会で地区優勝したようで、期待できるね。

(高橋)

確か、女子の体操が強かったのでは。インターハイにも2人行っていると思う。

(ハンドボール、空手部ができたばかりで、ベスト4、などなどの未確認情報も)

(事務局)

千葉さんは、チームが弱いのに、ラグビー県代表に選抜されてすごかったですね。

(千葉)

一回戦で負けましたが、実は、フアンクラブを作られまして。噂では、1年3年生まで53人。噂で、回りまわって聞こえて来ただけですけど。(今回、女性がいないので、真偽不明。)

(全員)

妄想だ、妄想！

体育祭の思い出

(及川)

冬は、体育の時間は、ほとんどラグビーばかりだった。

(小野寺)

体育祭の時など、1年対3年でクラス対抗戦。やたら、

骨を折るのがでたり。救急車がすごく来たな。

(目下)

体育祭は陸上競技。球技大会は、ソフト、バレー、バド、卓球、水泳、ラグビーなど。

俺は、バドで、狩野さんと一緒に練習した記憶がある。今日は、ここに女性がいらないのが残念だな。いろいろ別な話が出るのに。

バイク通学は、10キロ以上

(及川)

石越町と申請して許可をもらい通学できた。当時は、グーグルなかったからね。

(高橋)

俺は、ずっと自転車だった。

(千葉)

俺は、ずっと50ccだった。

(目下)

千厩、涌谷、花泉など、遠くから通学していた人もいたね。下駄ばきで、自転車のペダルに挟まったりしたことがあったな。



目下敦さん

怖かった応援練習

(事務局・岡本)

参加したことない、野球部にいたから。

(千葉)

応援歌、あまり覚えていない。

(目下)

運動部は出なくて良かった。先輩のパシリやつていれば良かったから。応援練習はきつかった、怖かったね。竹刀をもって回って来て、「声が出てねー」なんて言われて、ビシビシやられた。

総会に向けて

(事務局)

最後になります。今年は幹事ですので、動員よろしくお願ひします。9月7日土曜日、「パレス宮城野」です。

(及川)

名簿はありますか？2年前の名簿をもとに電話かけまくりました。2年前は普段来ない人がたくさん来ました。仙台に住んでいるか、仕事を持ってなくてはならないのですか？

(事務局)

同期中心に広めて集めていただいて、近隣、佐沼からの参加もOKです。



# 地域を元気に…！

㈱東北地域環境研究室 専務取締役

島谷留美子さん(高三十六回生)



《公職》地域活性伝道師(内閣官房)、東北農政局環境情報協議会委員、大崎市観光振興ビジョン戦略会議委員、南三陸町復興

応援大使など、共著に「東北発！女性起業家28のストーリー」(カナリヤ書房)。

東北各地のまちづくりに関する調査や道の駅など地域の交流拠点施設などの企画・計画づくりに関わる島谷留美子さん。多方面で活躍する島谷さんに、佐沼高校の同期生でフリーアナウンサーの渡辺祥子さん(在仙同窓会副会長)がお話を伺いました。

いるのを見て「凄いなあ！」と思っていましたよ。  
**(渡辺)** 私こそ、島谷さんの仕事はとても大切な分野だと思っていたので、今日は色々教えてもらえるのではないかと楽しみにしていました。ところで、高校時代の島谷さんはテニス部で走り回っていたイメージが強いのですが…

**(島谷)** 女子軟式テニス部は、朝から晩まで顧問の佐々木駿先生に鍛えられました。良い思い出です。父の転勤で各地を転々としていた私が登米市に住んだのは高校時代の三年間。でも、仙台を拠点に仕事をしていて「私は佐沼高校出身です」と話すときの方が、「佐沼なの！」と親しみを持って受け入れてくれます。また、同窓の先輩、後輩が多く、とてもありがたく思っているんですよ。

様々な人や地域と関わって

**(渡辺)** 島谷さんは、全国的にも評価の高い道の駅の計画づくりに関わっていますね。

**(島谷)** 石巻市の「道の駅上品の郷」や山形県米沢市の「道の駅米沢」などです。地元の方の熱い想いを計画に反映させ、その地域ならではの道の駅にするための計画づくりのお手伝いをしています。

**(渡辺)** 大切にしていることは？

**(島谷)** 地域の方々とのコミュニケーションを密にして、その道の駅を皆でつくりあげ

というプロセスです。施設さえつくれば地域は活性化するのではなく、そこに住んでいる方々がその地域をこれからのようにしていきたいのかなどを考え、話し合う場になって欲しいと思って取り組んでいます。



私達、同期(36回生)です。

渡辺祥子さん(左)と島谷留美子さん(右)

**(渡辺)** 「東北発！女性起業家28のストーリー」を読みました。生き生きと綴られる東北の農山村女性起業家の皆さんの人生、素晴らしいですね。取材をした皆さんの出会いはとても貴重だったのでは？

**(島谷)** はい。この取材を通して私の意識は大きく変わりました。皆さん様々な農業

ビジネスを展開しているので、取材に伺うとまず自分の商品や取り組みなどを話すと思うでしょう？それが違うんです。皆一様に「島谷さん、この景色を見て！ここは

素晴らしいでしょう！！」と地域自慢から始まる。びつくりしたけれど、これが地域

を元気にする一番の力だと確信しました。  
 もっと大きな声で…！！

**(渡辺)** そういう話を聞くと、地元をもっともっとアピールしなければ！との思いが強くなりますね。

**(島谷)** そう！仕事でたくさんの方によくお会いしますが、出身地を伺うと多くの方が「県北のほう…」などと話し始めます。そう話す人はほぼ登米市なので(笑)、「私は佐沼高校なんですよ」というと、「えっ！私も」とようやく話し出しますが、これはもったいないと思います。

**(渡辺)** 確かに。私も今では聞かれなくても自慢げに出身地の話をするけれど、二十代など若い頃はあまりおっぴらには言っていないかったかも…。

**(島谷)** 佐沼高校は一大ブランドですから、もっと大きな声で自慢すべきです。そのことが、地域や自分自身の価値を高めることにつながると思います。私は転校生で佐沼では三年間だけの生活だったので、余計にそう思うのかもしれませんがね。



**(渡辺)** なるほど。今の話を聞いて、もっともつと佐沼高校の存在、そして卒業生という誇りを強調したいこう！と思いました。

**(島谷)** お互い、先輩方に続くよう頑張っていきましょう！



ひんがしによき国ありて―

同窓の皆さんに支えられ、助けられ

尚綱学院大学心理教育学群学校教育学類

教授 田村嘉勝（高二十二回生）



仙台に来て、とい

うより尚綱学院大学に赴任して九年目。大学も二つ目で、非常勤を含めますと数大学になります。私の教員生活は、

横須賀市での小学校教員から始まりました。その後、中学、高校に勤務し、二十年ほど前から大学教員になりました。この紆余曲折な教員歴は全国的にも稀有なようで、過去を振り返りますと自分でも不思議な感じがします。

専門は、日本近現代文学と国語科教育学です。前者を詳述しますと「川端康成」

「井上靖」を、後者では「国語科における学習課題」を専門にしています。書店

あるいはメディア等で「田村嘉勝」とあれば間違いなく私です。一昨年正月、NHKBSで僅かでしたが出演しました。視聴者は案外多いもので、同僚や西日本

に住む知人からも連絡がありました。

こんな職業だからでしょうか、いろんな方々に出会いました。この出会いによって私は育てられ、同窓の皆さんに支えられ、助けてもらい、今でも恩恵に頼っています。出会いはほとんどが偶然で、奇遇と言えます。

表題は勿論、校歌の出だしです。友人に折口信夫の研究者がいて、その彼に、私はかつて折口作詞の校歌を歌って来たと話しますと、「ホントか」とやや疑いの眼差しでした。

熊谷達也さんとは福島県奥会津で初対面。直木賞受賞前でした。仙台に来てからは、国際地域文化の桜井ひろ子、英文学の佐藤義明（元宮城大学）両先輩、後輩では日本近現代文学の高橋由貴（福島大学）さんを知りました。彼女は高橋洋一郎先生のお孫さんです。学会の懇親会での座席が隣で、「田村先生は、もしかして高校の先輩ですか」ときかれ、そして、「祖父が先輩方にご迷惑をお掛けしたのでは」と。「そんなことはありませんよ」と笑いましたが。

大学では、授業は当然ですが、学内分掌もいくつか任されてきました。そのためいろんな体験をしました。あまり気乗りのしない、できれば避けたい会合もいくつかありました。しかし、年齢的に

また、経験的に忌避出来ない立場にいる

事実を自ら悟る必要がありました。

そんな時、教員を目指している学生とサークル「PLUM」を立ち上げました。毎週の活動以外に年二回、地方の小規模学校に赴いて二泊三日の学習支援活動を行います。その一回の訪問が、登米市の横山小学校と柳津小学校です。両校に

赴ききっかけは、当時の登米市教育長片倉敏明先生夫人との話の流れにあり、まずは横山小学校が決まりました。片倉先輩とは同窓ですから話は難なく進みました。訪問二年目に、当時柳津小学校長畠山俊之さんから誘いを受け同校にも伺うことになりました。畠山さんとの

面識はありません。私はお世話になる立場でしたから、低姿勢で挨拶をしました。途中で先輩後輩と判り、相互に苦笑した記憶があります。後年、彼は学校現場を離れましたが本学の学生にはあたたかく声を掛けてくださっています。

私は、大学での授業以外に、県民大学の文学講座、県内教員向けの研修も担当しています。県民大学は一般の皆さんが自由に参加できます。講座は毎年秋に今年度はイオンモール名取で開催されます。受講者はかなりの読書好きのようによく勉強されています。

特筆しなくてはなりません。

本学の講座講師には、以前佐高に在職

の大野文治先生にもご出講いただいております。私は高校時代「現代国語」を教わりましたが、講座ではご専門から「漢詩を読む」と題して話され好評です。先生からは「佐沼大学の由来」をお聞きしました。

尚綱学院大学に赴任して、多くの同窓の皆さんにお会いし、今日まで来ています。最後になりますが、皆さんの、そして私の後輩が、私の所属する学科・学群で学んでいます。真面目な彼女たちに集まってもらい写真を撮りました。私にとっては大切な教え子たちであり、なかなか頼もしい後輩たちでもあります。



佐高卒業生（全員）の教え子たちと一緒に

「ひんがしによき国ありて」は、いまだに胸を張って歌える、意味深長な校歌です。



## ◆前年総会は百七名の参加で盛会

第三十五回佐沼高校在仙同窓会の総会・懇親会は平成三十年九月八日（土）午後四時から青葉区上杉パレス宮城野において開催されました。総会当番幹事は二十九回生が務め、百七名が参加しました。総会に先立ち、直木賞作家の熊谷達也さん（二十九回生）に記念講演をしていただきました。懇親会は久々の再会に同窓の絆を確かめ合い、思い出話しに花が咲きました。今年の第三十六回在仙同窓会総会は、令和元年九月七日（土）に開催します。会場は例年通りパレス宮城野。総会当番幹事は三十回生。多くの同窓生の参加をお待ちしています。

第三十五回総会模様



## ◆佐沼高校同窓会懇親ゴルフコンペ

平成三十年九月十一日（火）杜の都G.C.において、第一回佐沼高校同窓会懇親ゴルフコンペが開催されました。オール佐高同窓会の懇親を深めようとの機運が高まり開催の運びとなりました。二十五組、約百人のコンペとなりました。参加者は十一回生から五十九回生まで幅広い年齢層となりゴルフの楽しさを満喫できたようです。ダブルペリア方式での優勝はネット69・2（グロス74、ベスグロ）鈴木信也さん（三十六回生）、準優勝は後藤昌義さん（三十回生）でした。

今年開催の第二回コンペは九月十日（火）開催の予定です。振つてご参加下さい。

## ◆佐藤達さん（十六回生）の祝賀会開催

フランスへ渡り五十年、アーティストとして幅広く活動・活躍されている佐藤達さんの「アーティスト サトル・サトウ渡仏五十年記念作品集出版を祝う会」が六月三十日ホテル白萩で行われました。佐高同窓生を始め、地元登米市や、東京からなど百二十人を超える出席者で祝賀ムード一色となりました。

## ◆会計担当が代わりました◆

六月十七日開催した期別幹事会において、在仙同窓会の会計担当者の変更が承認されました。長年担当していただきました三十七回生の県警勤務金野陽一

さんから五十三回生の七十七銀行勤務及川幸治さんにバトンタッチとなりました。

## ◆年会費のご入金をお願いします◆

在仙同窓会の活動は、在仙同窓生の年会費で運営しています。皆さんへの総会案内状の制作と郵送、会報誌「ひろがり」の制作と印刷、母校への寄付金、その他用紙文具通信費などを年会費から支出しています。一人二千元の年会費を、会運営のためにご理解いただき、ご負担をお願いします。

## ◆情報をお待ちしています◆

お知らせの同窓生の活動や、活躍している情報（同期会、趣味、サークル、イベント、著作等の活動等）がありましたら、ぜひ事務局へご連絡をお願いします。在仙同窓会事務局／（株）ホットハウス内（担当・岡本） ☎（215）7787

## ◆編集後記

「ひろがり十八号」ができました。ご協力ありがとうございました。発行に関わり五回目、幾分マンネリ感も？皆様が、いかがでしょう。三十回生の座談会で、体育館、校舎が新築されるとのこと。そういえば、体育館が完成したのは昭和四十五年、入学した年。当時の記憶がよみがえった。ご意見お待ちしております。編集委員長（二十五回生）佐藤新光



**ホットハウス**

～住み替えて始まる素敵生活～  
不動産のことならホットハウスへ

代表取締役 日下 敦（高第30回生）

仙台市青葉区本町1丁目5-3  
TEL 022（215）7787

## 株式会社大成ハウジング

代表取締役 佐々木 良泰（高第31回生）

仙台市若林区荒井五丁目十九番地の  
☎022（287）3322

## ゆうファミリークリニック

～地域の患者さん、  
リウマチ患者さんのために～

院長 高橋 裕一（高第30回生）  
宮城県宮城郡利府町利府字新館二  
☎022（七六六）四一四

## （株）日専連ライフサービス

「ちよつといながある  
あなたに身近な

日専連ゴールドカード

仙台市青葉区中央一・三  
☎022（二六七）九二二

